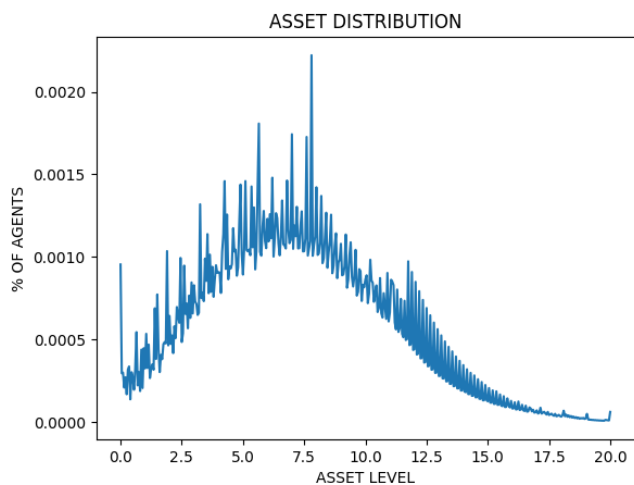
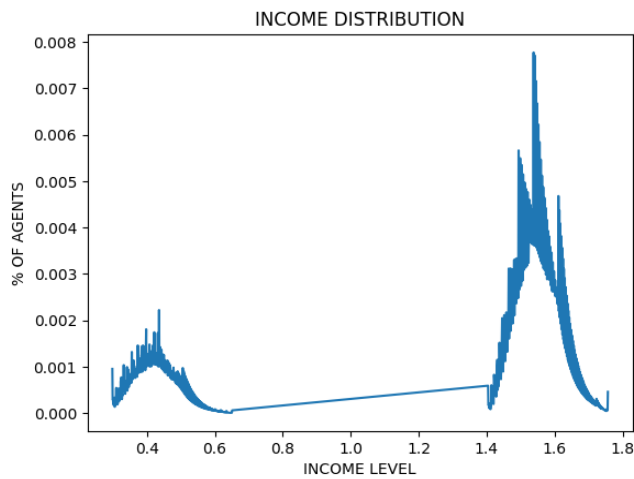


1, 日本のマクロ経済は

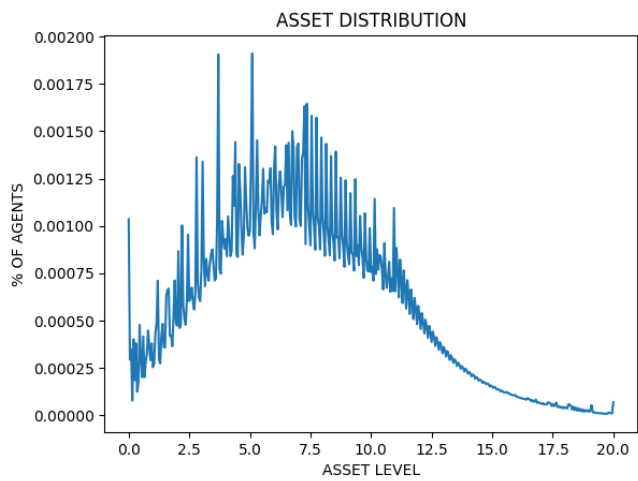
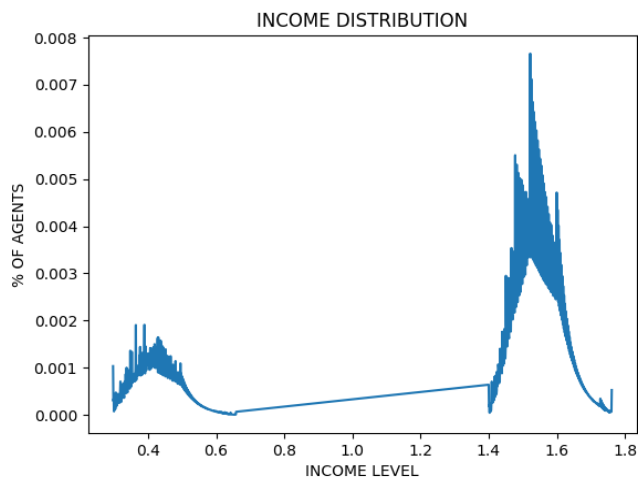
$$F(K, H) = \sum_a \sum_h ((1+r)a + (1-\tau)wh + T - g_a(a, h)) \mu(a, h) + \delta K$$

として表すことができる。ここで  $K, H, a, h, \tau, w, T$  はそれぞれ資本、総生産性、個人の資産、個人の生産性、所得税率、賃金、分配金を表し、 $g_a(a, h)$  は、個人の来期における最適な資本量を示す  $g(a, h)$  を  $a$  で偏微分したものを表し、 $\mu(a, h)$  は分布関数を表す。また、均衡は  $r$  と  $w$  を決定することから決定される分配金に基づき各個人が最適な資本量を決定するため、これに基づき資本の分布が確率的に決定され、さらにそこから新たな資本量が導かれ、この資本量と元の資本量の差の絶対値が十分小さくなる時として定義される。

2,  $(K, w, r) = (8,0386, 1.3032, 0.0177)$



3,  $(K, w, r) = (7.9447, 1.2994, 0.0181)$



所得税がない場合のジニ係数は 0.170、5% の場合では 0.166 であることから 5% の所得税の導入により格差が拡大したといえる。また、GDP は 0.1% 程度減少しており、特にメリットがないため資本所得税を増加させはしない。